

令和4年度第1回東日本大震災津波伝承館運営協議会の開催結果

日時 令和4年5月31日(火) 10時15分～11時45分

場所 国営追悼・祈念施設管理棟セミナールーム

1 開会

里館課長開会を宣言する。

2 藤澤副館長挨拶

本日は、ご多用のところ、お集まりいただきありがとうございます。

また、委員の皆様には、日頃から当館の運営にご協力いただき、感謝申し上げます。

本日は、今年度1回目の運営協議会となりますので、昨年度の取組実績と今年度の事業計画について、ご説明申し上げ、皆様からご意見を頂戴したいと考えております。

当館の入館者数は、4月30日に累計で50万人を達成しまして、ゴールデンウィーク期間中の来館者数は約1万8千人と、昨年のGWの約1.4倍の来館者となりました。中盤以降天気もよく、コロナ禍ではありますが、やはり「行動制限のない初のGW」の影響を受けたものと感じています。

また、4月12日の花巻中学校を皮切りに、今年度の修学旅行や校外学習の受入れも始まっており、すでに県内外の多くの学校からご来館いただいております。

委員の皆様からこれまでもご意見いただいているとおり、子どもたちに対する震災教育や防災学習の場として伝承館の役割はますます大きくなっていくものと実感していますので、引き続き関係機関とも連携し、たくさんの学校にきていただけるよう取り組んでまいりたいと考えております。

全国的に、新型コロナウイルスの感染状況は予断を許さない状況が続くものと思いますが、引き続き感染予防対策をしっかり講じ、来館者の皆様に安心してご来館いただけるように運営していきたいと思っています。

本日は、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただき、今後の運営に活かしていきたいと考えていますので、どうぞよろしく申し上げます。

2 委員紹介

出席者名簿により、委員を紹介した。

3 議事 (1)「令和3年度東日本大震災津波伝承館の取組実績について」

事務局から説明した後、質疑を行った。質疑の内容は次のとおり。

(柴山委員)

この間で 50 万人達成したということで、物凄く良いことではあるが、この 50 万人という数字は、結構独り勝ちしすぎていると感じている。実際にコロナ禍の状況で観光統計を見ると、陸前高田市だけ令和元年から令和 2 年に対して下げ率が物凄く低い、実質でいうと令和元年が 87 万人で、令和 2 年がそれに対し 10%ほどの減少率になっているが、全体だとだと 4 割減程となっている。だけれども陸前高田市は、基本的には観光客が落ちていない現状にある。

それはいろんな意味があると思っている。まず一つとしては、三陸道が開通したこと、そしてこの施設が出来上がって、実際に日帰り客が増えたという可能性もあると思います。なので、ここの観光客がそんなに減少しなかった。けどほかの沿岸部市町村に関してはかなり減少してしまったという状況になっていると思っています。コロナ禍の状況だということも一つあるのですが、実際には、他の沿岸部の市町村の伝承館とか伝承施設のパイを食ってしまっている可能性は、少し大きくなっているかなと思っています。他の伝承施設に行かなくて、ここの施設を中心に考えてしまっている可能性が少しある。

したがって、何を言いたいかというと、勿論その中で、ここの質を下げるというわけでもなくて、本来は、岩手県の施設ということもあるので、底上げをしないといけない施設であるということはあると思います。なので、ここは伸ばしつつ、各市町村にゲートウェイとしての機能として他の施設に誘導できるような形にしていかなければならないと思っている。

今、私もいろいろ係わっていて、そこの視点が抜けていたなと思うことが少しありまして、解説員に展示に対する内容を指導してきたが、他の市町村に誘導させると言うことをあまりできていないということ。また、この施設の外には誘導させるように地図とかはあるのですが、そこに対して積極的な説明というのが無かったということということになると思います。

なので、今後、実際に解説員であったり、また、ここを利用される方になるべく他のところにも伝承施設とか良い場所があるということを促すような形で、ここからちゃんと発信ができるように総合的に上げていかないといけないところになります。

これだけ 50 万人来ているということで、集客力があって宣伝力もあるので、ここをベースにしながら考えていければと思っています。

それと、今後、もし陸前高田市にホテルが 2 棟ぐらい建設されると、ここだけが集中する可能性が高くなる。ここに集客し、他のところに行かなくなってしまうことが起きるかもしれないので、今、陸前高田市さんにはホテルのキャパシティがそんなにはないので、コロナが終わった後はまた分散はすると思うのですが、それがそういう形にならない可能性ももしかして含まれているということもあるので、実際にここの館が中心となって全体を上げていくということに舵を切っていただきたい。方向性をいろいろ考えていただければなど、アドバイスのコメントとなります。

(木村委員)

今の柴山委員のご指摘ももっともだと思います。

50万人の来館者があることは、非常にすごい数字だなと思っております。他の石巻や福島島の伝承館がありますけども、そちらの状況、来館者がどれくらいいるかというところを、もし数値としてお分かりであれば参考に教えていただきたいのと。

それと、先ほど陸前高田市が観光客数において独り勝ちということ。これは観光協会の方でも数字は把握しております。非常にコロナ禍においても観光客の数字が落ちていないと、ただ問題なのはそちらの方々が来るには来るのですが、例えば、気仙沼にお泊りになったりとか、大船渡に泊まったりということで、一定数の来訪者の数が地域の経済的な上にはなかなか反映していないというのが現状であります。観光協会の方でも今まで広域的な連携はあまり行ってきませんので、昨年花巻、釜石、陸前高田という形で、内陸の方から人を呼ぶというか連携したが、今後協会の連携という形で、どう行っていくかと思っている。

いずれにしても、広域的な連携というものは今後大事になって行くと思います。

(議長)

広域連携の要望等ゲートウェイ広く広げることが、集めるに際しても広い連携を広げるステージになっていると思います。

その他ございませんでしょうか。

(松村委員)

8ページの避難訓練の合同実施、津波避難訓練の部分で確認したい。

400名の参加者数ということで、団体さんは盛岡の中野小学校と西南中、未来サポートということで、この団体の皆が一時待機場所へ避難したということでしょうか。気仙小までの移動は、職員とか400名も一緒に気仙小まで避難したのでしょうか

(事務局)

中野小学校及び西南中学校さんとも一時待機場所、水盤のところまで避難し、館内に引き上げていただいた。それ以外の方々が気仙小学校まで避難しました。

津波警報等が発令されたときに、いかに館内から水盤のところまで円滑に誘導してかというところを主眼に置いた訓練であった。

(松村委員)

毎年避難訓練を重ねながら、色々工夫なさって、形を変えながらすごく良いなと思います。それが有事の際に生きてくるので、避難訓練は重要だと思っております。

それで、来館者も非常に増えてきているので、避難場所に指定された気仙小学校へ、ということが大事なのですが、有事の際は、臨機応変という部分も非常に短時間で正しい判

断をするという部分が大事になってくるし、以前観光でいらっしゃる方は自家用車で来られる方も多いという県立大学の発表もあったようなので、徒歩で移動ということもあるし、自家用車で来た方にはどうするのかとか、観光バスでいらっしゃる方も多いので、その方も含めて全部歩いて気仙小まで避難するのだろうかとか、万が一のことを想定したときに、いろんな形での避難方法を確立しておいた方がよいのではないかなと。

もしかしたら、もうすでに観光バスでいらっしゃる方には、ドライバーさんとかガイドさんには、万が一の対応ということでも連携は取っていらっしゃると思いますが、いろんなことを考えて、地域も新しい道路が出来たり、大分整備も進んでますので、当日、万が一の時、信号機が止まる、その時その方々をどちらの方に誘導するのかというあたりを、考えているところがあれば教えていただきたいし、いろんな方法を考えるのも大事なのかなと思って聞いておりました。

(議長) 事務局からコメントがあればお願いします。

(事務局)

今の避難の関係についてですが、伝承館の場合や道の駅もそうなのですが、松村委員がおっしゃる通り気仙小学校になっておりますが、公園自体が広いため、東側の方ですと避難場所が違ったりしておりますので、当館の場合、まず団体の方々には、当然予約していただく段階で、避難内容等を周知しておりますし、来て頂いて真っ先に解説員がご案内するのは、今もしこの場で津波注意報等が発令された場合は、皆さん徒歩で気仙小学校まで誘導します。ということをご説明してから館内の案内に入りますので、そういったところを心がけていきたいと思いますが、今日、市の防災課の中村課長がお見えになっておりますので、補足でコメントいただいてもよろしいでしょうか。

(市防災課 中村課長)

先ほど松村委員がおっしゃられた合同訓練の話になりますが、訓練の仕方としてはまだまだ課題があるところと思っております。館内から第1次待機所に集めるというのは大事なこともかもしれませんが、その後、津波避難訓練とすれば高台までの一連の流れで行わないといけないのですが、訓練の事情上、集めるところで一端切ってしまって、その後そこから高台に移動することで、トータルの限られた30分間に館内にいらっしゃる方を外に出して、その方を高台に確実に誘導できるのかということは、次回の訓練では流れとして検証していかなければならないところかと思うところであります。

車に関しましても、市の地域防災計画では、原則徒歩ということになっております。それはと言いますと交通渋滞のことがまだはっきりシミュレーション化されていないということもございますし、この施設の場合には出入口が信号のところ1カ所しかないという状況で、外に出るまでの駐車場内の整理がなかなかうまくいかないのではないかなという心配

がございます。また、委員おっしゃったように大きな地震があった後に津波が来るのは、普通のセオリーかと思えますので、信号が停電しているというようなことも考えられます。

また、警察の方も原則浸水域の方には入って交通誘導を一切やらないし、基本的には消防団も参りませんので、皆さん各自で避難をしていただくことが大原則になる中で、車避難がスムーズに出来るかというところは、今後大きな課題として検討中でございます。

と言いましても、やはり車が必要な方もいらっしゃると思いますので、車で避難しなければならない方をどうゆう人に絞るのかとか、ルールの明確化というものは勿論作っていかなければいけないことかと思えます。

また、補足となりますが、南会長からも当初ご挨拶にございましたけれど、県から新しい最悪の浸水想定が出されました。今回の浸水想定は、内閣府の日本海溝型ではなく、11年前に我々が警戒した東日本のまったく同じスタイルがこの当地域においては最大の津波であるということで、当初第1波が来るのが30分程度なんですけど、防潮堤が破堤して、最悪のシナリオで行きますとかさ上げ地の高台も浸水をしてしまうということなので、この場所から確実に浸水域を抜けるというような最短距離になりますと、橋を渡るリスクはありますが、今泉地区の高台に行かなければなりません。

ただ、気仙小学校をランドマークとして目印にしていますが、途中の通路で十分浸水域を抜けることができますので、そのような意味では、徒歩で避難された方が早めに浸水域から抜けれるということもございますので、小学校まで行く距離を見ると千数百メートルとなっており30分で逃げれるのかという不安がありますけども、橋を渡って少し小学校に上がる通路の方に行っていただければ、浸水域を抜けるので、まずはそこまで確実に第1波が到着する30分以内に皆さんが到着できるような訓練をやっていかねばならないので、今後伝承館や道の駅と協力してやっていきたいと考えております。

(柴山委員)

追加質問として陸前高田市の中村さんと村上さんにお聞きしたいのですが、今、EVでこの街を回る車の運用が始まっていると思います。あれを避難用の車両として活用することが出来ないか。先日拝見し、車幅も狭いし、全部が開いているので、もし詰まったとしてもすぐ外に出られる状況になっていると思いますので、このようなEVの避難活用ということができればいいなと思っておりますが、その様な検討は、陸前高田市として出来ますか。

(市防災課 中村課長)

今2台で運用しておりますけれども、この施設に来るのは、土日祝日のみとなっております。平日も基本的には定期運航ということで、市内をぐるぐる回っておりますので、例えばこの施設からの避難としてうまくタイミングが合って、必要な方が乗車できるということになれば有効な手段となるが、地震・津波が発生したときに必ずここに待機しているものではないので、それを全面的に、このような物があるということ、最初から利用あ

りきで動くことは、今のところ難しいのかなと思います。

そういう専用車両を別途整備すれば、その様な方向も十分考えられるかと思いますが。足の悪い方がこれに乗って避難するということは大事なことだと思っているのですが、その車両の運用とかについてはもう少し詰めていかなければならないという考えであります。

(柴山委員)

専用車両にすることは、難しいということはわかっているのですが、その中で管理者がそういうことを分かっていることが重要だと思うので、そういう活用ができる可能性があるというところだけは、思っていればよいと思います。

(市防災課 中村課長)

先生がおっしゃる通り意識の問題で行きますと、車両に関しましても、我々必要な方が一般車両を含めながらですけど、乗り合いの重要性とかをこれから周知していき、必要な方に自分勝手に皆さんが動くのではなく、必要な方に最小限の車で避難していただくことになる、それぞれではなく声掛けみたいな意識もしっかり持っていただきたいような周知を行っていきたいと考えています。

(木村委員)

このことに関連して、震災前に道の駅がタピックのあたりにありまして、国道との出入口が一つしかございませんでした。うちも道の駅に店がありまして、当時、避難するのに信号に止まりまして、出口が1カ所しかない状況から物凄い渋滞で、結局車で避難できなかった。今お聞きしましたが、現状でも出入口は1カ所しかない状況で、通常であればいいのですが、有事の際は、11年前の震災の件を勘案すると、何かしら出入口の必要性というのが大事かと思うのですが、その辺のところ今後対策等を検討されていますでしょうか。

非常に大事なことだと思うのですが、避難に関しまして、出入口が1カ所だと車が詰まって身動きが取れず、避難できなかった方々かなりの数いるのです。

繰り返しになりますが、このような状況は非常にまずい状況だと思いますので、その辺の対策を、もしまだ考えていないのであれば、今後検討すべきかなと思います。

(事務局)

伝承館を含めて、この公園全体の課題だと思っておりますので、公園管理の方でも同様な協議会がありまして、その協議会でも課題の一つとして出ておりましたので、その場で議論が継続されていくものというふうに考えております。

(木村委員)

早い対処をお願いします。

(事務局)

先ほど木村委員からご質問のありました、石巻と福島の来館者数についてご報告いたします。

石巻の伝承館は、令和4年度に入り5万人達成したということでございます。福島につきましては、今年の3月に10万人を達成したとの情報が入っております。

(伊藤委員)

50万人が4月までに来訪されてらっしゃるようだが、先ほど各地にも散らばってほしいという話がありましたけど、僕らマルゴト陸前高田で宿泊であったり、飲食店を使ってご飯を食べるといったお客様が、コロナ禍で8割程減った。8割減ったということは、それだけ街にお金が落ちていないことになる。50万人の方々が来て、中心市街地に何人行ったのか、こちらに来て結局、伝承館見て、パークガイドして、大概の人は平泉行って、花巻行って、気仙沼に行って、全然高田市内をウロウロしないお客様が結構いるんですね、どのぐらいの人たちが利用しているのかということと、先ほど他市のPRというか伝承施設とかに行ってもらえるようにとのお話がありましたけども、中心市街地に誘導するような声掛けとかを、協会なり伝承館の方々がしていただけているのかどうかをお伺いしたい。

(事務局)

市内への誘導の話ですが、私共が積極的にどうぞ市内にも行ってくださいというようなお声掛けは行っておりませんが、来館者の方々からのお問い合わせは結構ございまして、エントランスに配架しているパンフレットとか市街地の案内図を使って、ご案内できる範囲でご案内しております。

先ほど来話のあったゲートウェイの件ですが、他の市町村への波及みたいなことについては、なかなか定量的な分析はできていないところではありますが、団体予約の方々の行程を一部見ていくと、平泉とか気仙沼の方に流れていくこともあるのですが、一方で、三陸鉄道を活用するツアーも散見されているところでもあります。それから宿泊施設についても、浄土ヶ浜パークホテルだとか羅賀荘さんだとかホテルはまぎくなど、宿泊先としていただいているツアーが結構あり、そういう波及効果というものをもう少し定量的に分析しなければいけないなと課題は持っております。

(木村委員)

今の質問に関連し、伝承館には50万人いらっしゃっている。

これを伝承館の側で中心市街地に誘導するのではなくで、地元の事業者であったり観光施設側が、自らお客様を引っ張る努力が大事だと思う。ただ受け身でお客様が来るのを待っているのではなく、そのぐらいの大きな人数が来ているのだから、自ら自分の方に引っ張る努力をしなければ、いつまでたってもこの陸前高田は現状のままと思います。

そういった課題が多々ありますので、観光協会の方で、伝承館をはじめ色々な観光施設と連携を保ちながら、出来るだけ市内にも介入していただく。こういったことを今取り組もうとしております。

今後、色々な形で皆様の方をお願いすることがあるかもしれませんが、地域が一つになって取り組まないと、陸前高田はこのままで終わってしまうのではないかと危惧されるので、そういったことも皆様には理解いただきたいと思います。

議事 (2)「令和4年度東日本大震災津波伝承館の事業計画について」

事務局から説明した後、質疑を行った。質疑の内容は次のとおり

(高橋委員)

先に三陸 DMO センターについてお話しする。

昨年度までは県庁の観光プロモーション室に事務局を構えておりましたが、4月から宮古合庁に移転といたしますか、2カ所運用を行っており、私と旅行専門職員が宮古で勤務していることから、拠点を宮古に移したということになっております。

併せて新規事業などを作りまして、より一層地域と連携を図って、観光の方の需要に応じていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

新規事業の関係で先ほど来話題となっている、観光客の方々の動態調査を今年行いたいと思っております。携帯電話の移動情報を活用して、陸前高田にいらした人が、どこからいらして、どこまで行って、どこで滞在されているか、時間で推測という形になるが、そういった調査を今年のハイシーズンから秋にかけて実施したいと思っております。

それを、年度末か来年度初めくらいには、各市町村さんに観光計画等をまとめる上での基礎資料としていただいたり、伝承館の取組のご参考にしていただけるようなデータとしてお出ししたいと思っております。

また、そのようなデータだけではなく、伝承館に先ほどあったような観光ルート、実際にこういうルートがあるなど、目に見えるものを付けて、データと生の声を付けて分析していく必要があるのかなと思っておりますので、その際は、御協力をお願いしたと思っております。

それから、教育旅行が増えているとの報告がありましたが、我々も非常に増えているという印象を持っております。是非プロモーション資料を作りたいと思っております。観光コーディネータの佐々木と一緒に来たのですけれども、他市町村の方でも、せつかく道路が出来ましたので、伝承館にいらした人が、ぜひ自分の市町村に来ていただきたいと思っておりますので、我々は広域の団体としまして、高速道路を使えば50分でここまで行けますよ、というようないろんなセットになった観光商品というか、そういったものを作ってPRしていきたいなというふうに思うし、力を入れたいなと思っております。

その他、陸前高田市内の話もありましたが、モニターツアーをいくつかやりたいと思っております、伝承館にいらした方は市街地を心配してといいますか、今どの様になっているかに関心を持って来てらっしゃる人も多いはずだという声もありまして、その様な方々に来ていただいて、市街地を歩いていただく、といったものも観光協会さんと相談しながらになると思いますが、いくつか行うモニターツアー中で、もしご希望があつて、よろしければ、そういったことも出来るのかなと思っております。

資料の関係ですが、前回 11 月に公園内の遺構の方を案内していただきありがとうございました。非常に感動しました。今回も 7 ページのところにパークガイドによる見学研修の記載がありますけれども、当館と一緒に見ることで、相乗効果が出ているのではないかと思いますけれども、印象的などころでも結構ですが何かお話聞かせていただければ、我々誘致の参考になるのかなと思いました。

あともう 1 点ですが、オンライン説明というのがありまして、前回この協議会でも検討してはどうかというご意見がどなたからかあつたような気がしますし、それを反映させたのかなと思いますけれども、例えば、教育旅行の事前学習、そういったことに活用させていただいてもいいのかなと思います。相当負荷がかかつて、年間 10 件ぐらいしかできませんとか、もう少し今年は広げていきたいんですとか。そういった方向性みたいなものを教えていただければと思います。

(事務局)

パークガイドと見学環境のお話ですが、パークガイド事業の方は、マルゴトさんのご担当の方とのお話をしていくなかで、今年度いよいよ増えてきている状況で、この 5 月、6 月くらいで大体、当館とパークガイドを併用して使って、予約した団体が 20 件くらいございます。

その際に我々受入側として留意しなければいけないものとして、あまり同じようなことを話してはいけないなというのがありますので、例えば気仙中学校にお立ち寄りになる際には、気仙中学校の触りのところをお話しながら、引き続きパークガイドから詳しくお話を聞いて下さいとか、そういう形で被ることなく、かつ継ぎ目のないような、一体的なご案内をしていかなければいけないというところで、こちらの方の予約情報の共有というところは、今年度、気を付けてやっていきたいと思っております。

オンラインのお話でしたが、これについても委員のおっしゃるとおりであります、オンラインの見学ということになりますと機材の操作をする者が 1 名、解説員が 1 名必要ということで、本来であれば解説員 1 名でいいところが 2 名必要になるということもあり、なかなか繁忙期に実施することが大変だなと思いつつも、こちらについては、どういう形で運用していけばよいのか私共としても検討していく段階というところです。

(越野委員)

私からは3点あります。

避難訓練についてですが、伝承館からの避難というのは非常に難しい。

やってみて難しいと思うのですが、気仙小学校までが遠いということで、たとえば子供がその避難所までどのくらい時間がかかるのか、あるいは、お年寄りほどのくらいかかるのか、それから車いすだったらどのくらいかかるのか、そういうデータを取って、例えば避難タワーが必要だとか、そういう話になると思う。避難訓練は形だけではなくて、実際に避難するとどのくらいの時間がかかるのか、というようなことをきちっとデータを取っていた方がよいと思う。

2点目は、教育普及事業です。昨年度の岩手大学で、高校生フォーラムを開催した。

要するに津波の記憶と教訓をどうやって伝えていくか、若い高校生がその様な取組みをやっている。それを岩手大学で発表させたんです。そうすると、その様な若い人たちが積極的に取組んでいる姿が良くわかったので、その様な取組みをもっと進めなければいけない。私は大学から離れてますから、伝承館がその様な津波の記憶と教訓を伝えていかなければいけない。復興状況を若い人たちに伝えていかなければいけない。その様な観点からみると、県内の高校生が、記憶と教訓を伝承させようとする取組があれば、復興のために自分たちが出来ること何かということを取組んでいる、その様なものを積極的にもっと伝承館として広げていき、コラボレーションではないけれど、ただ展示するだけではなく、その様な高校生、あるいは中学生などの子たちと一緒にやっていけたらいいのではないかという気がしました。

この間も5Gを使って葛巻高校とやりました。後で私に感想文を送ってきましたけれども、あのような機会があるとモチベーションがすごく高まるわけで、ただ見学しに来るだけではなくて、モチベーションをいかに高めていくか、その様な形に刺激を与えるというか、取組を行っても良いのではないかなという気がしました。

3点目は、宣伝と言いますか情報発信です。

この津波伝承館のYouTubeを見ました。だいたい3000回くらいのアクセスがあるようだが、ちょっと少ない気がする。なぜ少ないかということ、津波伝承館がこの様なものだという説明をしているだけだからです。よって見たいという気にならない。

例えば、学生がリポーターになって学生の視点からこの津波伝承館をYouTubeにあげて発信をしていくとか、テレビ局の取材というか、その様な形で津波伝承館を紹介するとか、もう少しメディアを使ってみるといいと思いますし、あるいは、若い人たちの視点で伝承館がどの様な施設なのかということレポートしたYouTubeにした方がよいのではないか。

そうすると、同じ年代の人たちが見てみようという気になる。ただ紹介するだけでは、ああそうかという感じなので、やっぱりそこら辺はもう少し工夫したらいいのではないかという気がしました。

(菊池委員)

修学旅行とか校外学習に対応いただきありがとうございます。

コロナの関係もあって、見学する学校が増えているという現実もあって、このまま行ってもらえるかどうか不透明なところもあるが、3年度事業報告の9ページある教員の研修会についてお話したいと思います。

非常にありがたいと思っております、小学生では震災後に生まれた子も入ってきている、あるいは先生方も震災後に教員になった方も増えてきている中で、教員自身が震災のことをよく知らないという現実があると思います。

そういった中で、伝承館に来て、色々な解説を聞いて学習することは、効果があることと思っております。昨年度は、2回やっていただいたのですが、1回ごとの定員は設けていたのでしょうか。(事務局：20人ずつ2回の実施でございます。)

その時の先生方の反応というか、アンケートか何か取られていると思うのですが、どのような反応だったのでしょうか。内容についてご紹介いただきたい。

(事務局)

手元にアンケート結果が無いので、何%とか詳細はお答えできませんが、皆様から大変高い評価を頂戴しております。

特に館内の見学については、100%に近い数字で大変役に立ったとの評価をいただいております。以降その方々が帰った後に復興教育ですとか、当館への来館に繋がっていかくかどうかというところの分析については、これから行っていきたいと思っております。

(菊池委員)

全県で復興教育に取り組むということで、我々も働きかけを行っているところですが、こういった研修会を開いていただいて、全県で展開するといっても、どうしても濃淡は出てくるのは、やむを得ないところではあると思うのですが、復興教育をどう進めたら良いか、悩んでいるとか検討しているというときに、まず、伝承館を見て、お話聞いて、というところから始まってもらえれば、ありがたいかなと考えております。

それから、教育事務所における復興教育研修会での説明ということも、非常に効果があるものと思っております。実際にそこに集まる先生方というのは、各学校で防災教育や復興教育を担当している先生方が集まってくるので、年度内に(実施)というわけにはいかないと思っておりますが、次の年度に向けて、伝承館の見学を入れてみようという話になっていくのかなと思いますので、この研修会のみならず、県教委の研修等があった場合にきていただいて、展開していただければありがたいと思います。

伝承ノートも作成いただきありがたいと思えますし、感想の一番下にありました事前学習に使用したいという声もあります。たぶん学校で事前学習して、実際に見て、また帰って事後学習という形で使いたいという意見だと思いますので、学校によってやり方はあ

と思いますが、ニーズに合わせて対応いただければと思いますし、また、学校現場では、復興教育の副読本を合わせて使ってもらえれば、さらに効果が上がるかなと思います。

それから、越野委員から高校生の復興教育のために何ができるかのお話がありました。お話のとおり、昨年度、岩大の方で実際に高校生が発表して、すごく成果が上がったと思っております。

今はもう6月に入りますので、学校がどう対応できるかとか不安な部分もありますが、そういったことも一つのチャレンジだと考えますので、後ほどご相談いただければ、学校との橋渡しは可能かなと思いますので、よろしくお願いします。

(工藤委員)

まずもって50万人を達成されたということで、大変喜ばしいとだと思っております。

博物館におきましては、コロナの関係もありまして、去年は2万8千人くらいしか入りませんでした。

振り返って博物館の歴史を見たのですが、開館2、3年程で50万人突破している状況でした。その後10年程は10万人くらいで推移し、ここ最近では5万に前後、去年はコロナの影響で2万8千人という状況です。施設の性格が全く違うので、同じような結果になるとは思いませんけれども、こちらは集客力がある所だと思っております。ですから、常設展示は固定されたものがあつたりして、変更することは難しいと思いますが、当博物館におきましても、固定された施設の部分は変更できない、よくお客様に言われるのは、博物館に来るといつも同じような展示だとコメントされる方がいらっしゃいます。その様な方は実は、数年に1度しか来ていない方で、いつも来館される方は、今回はここが変わっているとか、結構展示替えできる部分は、定期的に展示替えしているんですね。やはりその様なところでは、また来ていただくための展示替えは重要だと思っております。

季節や年中行事にあわせてトピック展というのを、年間40回ぐらい行っているのですが、けれども、博物館だからジャンルを問わず何でもできるというところはあるのですが、例えば小林陵侑選手のジャンプスーツを展示してみたり、トラのはく製を展示してみたりということで、色々なお客様を楽しませるための展示を努力しているところでございます。手法はかなり異なると思いますが、お客様に来ていただいて、学習、体験・経験が出来たということになれば、非常に有効と考えております。なかなか言うのは簡単で実現は難しいと思っておりますけれども、そういったことも必要だと感じております。

(柴山委員)

先ほど事業計画の4ページ目、3項、共催又は後援承認の要件というところの(3)のイの部分なんですけれども、広域性を有すると認められることとあるが、公益性ならわかるが、広域ということになると、東日本大震災津波伝承というところを考えると、各地域に実際にコミットしながらその様なことをやるというイベントは結構あると思うんですね。

また、ここの展示物といった物や企画展で展示したものを貸出するというので、例えば小学校とか中学校がやる場合は、広域性というのは得られないけど、意義がすごく高い。

そういったものが出てくるので、広域性等という言葉で断念することが出てきそうな雰囲気は少しあると思いますので、広域性の概念、定義というものをどう考えておられるのか、お聞かせいただきたい。

(事務局)

柴山委員ご指摘のとおり、地域のイベント等でも震災伝承に重要な取組等があると考えられますので、この点の運用について検討したいと思います。

(柴山委員)

狭めるのではなく、しっかり色々なところで伝承とかそういうものを伝えられるような枠組みというか、要件を一端整理してほしい。

特に変なものが入らないようにというのは要件に必要なだと思いますし、広域性がある方がもちろん良いとは思いますが、今、アとイが両方とも必要な要件になっているので、解除されていい取組とかを注意していただければと思います。

(松村委員)

4点ほど思っていることを述べさせていただきます。

一つは、陸前高田市街地に秋には市立博物館がオープンしますし、今年の3月11日には、市内で亡くなられた方の慰霊碑が出来ているので、その様な所との連携、あるいは積極的な勧誘みたいなこともあると良いのではないかと思います。

二つ目は、地元の被災した学校もいっぱいあります。そこでも防災復興学習としてすごく中身の濃い勉強をしておりますので、その様な取組を特別展示で学校を回った時に、展示させてくださいと勧誘を行うのも良いかなと思います。

それから、先ほど来話に上っている、中高生の声ですが、学校訪問等ではどうしても先生の声になってしまうので、子供たちの生の声を聞ける場というか、運営協議会を作るとかではなくて、声を聴ける場があるといいと思います。

最後に子供たちと一緒に未来へつなぐ歌というか、そういうものを音楽家の方と一緒に作って、テーマソングじゃないけれど、流したり、BGMとして使用するなどすれば、もっと地域連携の一つになるのではないかと感じております。

(木村委員)

実現はなかなか難しいかもしれないが、今、かなり注目されている佐々木朗希選手は、陸前高田市出身で、小学校の時に転校したのですが、彼は被災者でお父様を亡くされてしまして、その中で注目されるスター選手になっているので、彼に来ていただいて話をして

もらうとか、そういったことは難しいでしょうか。

そういった震災のマイナスということだけではなくて、明るい話題としての企画も大事ではないかと考えております。

(総括 南会長)

これまでの実績、経過を踏まえて、今後の展開への沢山の意見をいただくことが出来ました。

いくつかの話題の中には、今まで繋がっていなかったものを更に繋げることで、活動の場が広がるようなお話もあったように思います。

これまで一つ一つのトライアルが多かったと思うのですが、それらが、礎になって次の活動に繋がっていく。そんなことが今、起きているという風に聞かせていただいております。

動態調査等を DMO さんの方で実施されますと、検証に繋がるかもしれません。越野委員の話にありましたけれど避難訓練は、今までやってきたことのデータと照らし合わせ、もう少し深堀していける可能性も見えたかと思えます。高校生、若者への発信ということにつきましても、新しい手立てが見えそうで、発表の機会をつくる、メディアの利用、そして菊池委員からお話がありました伝承ノートの活用プラス副読本のような、正規の教育の中での更なる展開の中にもし組み込まれていきますと、復興教育の大きな一歩になると思えます。

また、先生方の研修について、子供たちが大事なものは勿論ですが、先生方もしっかりと学んでおいていただきますと、全体のクオリティーが上がっていくことにつながると、改めて受け止めさせていただきました。学校教育との繋がりというのは、しっかりと形になってきましたし、更に広がる可能性を本日示していただいたように思います。

柴山先生にはじめにお話しいただきました、中心市街地を含めての活用や、他地域との広域連携について、これまではなかなか難しかった事実はあると思いますが、これから次のステップに向けて進めていかなければならないこととしてご指摘いただいたものと思えます。

沢山のご意見をいただいて、それらを参考にしながら次のステップに進んでいっていただきたいと思えます。

津波伝承の活動が、点から面に広がりつつあります。次への備えは、伝承と繋がっているということが、今後益々問われてくるだろうと思えます。復興教育が復興教育としてあるとともに、次への備えの教育になって行くということが問われるでしょうし、必要になってくると思えます。

もう時間ですが、この際何かあればお願いします。

(柴山委員)

この会議自体が1時間半の会議だと思うのですが、なぜ、2時間じゃないのかなと思っており、皆さんご意見がいっぱいある中で少し短いと思うのですが、今後ご検討いただければと思います。

(議長)

議事4の(3)のその他ですが、委員の皆様からご発言ございますでしょうか。

今後、お気づきの点等がありましたら、すぐ反映できるかどうかはわかりませんが、アイデア等を事務局の方のお寄せいただけたらいいと思います。

(藤澤副館長)

委員の皆様には、貴重なご意見ありがとうございました。私も一つ一つ感想等を申し上げたかったのですが、時間の都合もありますのでまとめさせていただきます。

当館のミッションを確認しますと、震災津波の事実と教訓をしっかりと伝え、そして今後来るであろう自然災害、そういったものに備える。これは県内外、国内外含めてですが、来館された一人ひとりにここに来ていただいて、そういった自然災害に備えていただくというのが大切なミッションの一つでございます。

一般の方含め、皆さんからお話があったとおり、次世代、高校生中学生だけではなく、当時生まれていなかった子供たちにも、しっかりと伝え続けられるような運用をしていきたいと思っております。

また、本日は、委員の皆様が所属されるそれぞれの団体の立場として、こういったことを今年度やっていくといった主体的なご意見もありましたので、大変心強く思ったところでございます。引き続き当館と連携、御協力をいただきながら運営を進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

話しは変わりますが、昨日、県独自の緊急事態宣言が解除になりましたので、今、館内でストップしている、出口のところにある来館者からのメッセージを書き添えていただくボードだとか、奥の方にありますアーカイブ機能などは、準備が整いましたら順次再開していく方向で今進めておりますので、ご了解いただければと思います。

(事務連絡)

次回開催につきましては、令和4年11月を目途に開催したいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

(閉会)

里館課長閉会を宣言する